

ふとんしき

五十七年度 二年女児

わたしがふとんをしいていると、弟がめっちゃめっちゃにしてじゃまをしました。

「おかあさんさ、ゆっていなが。おごらっでもしらねがらの。」といってもやめないのです、なきまねをしました。そうしたら、弟があやまったから、わたしはなきまねをやめてわらいました。

こんどは、弟がわたしをうそつきだといってなき出しました。わたしは知らんぷりをしていたけど、なかなかきやまないのです、弟のかおをひっぱりました。弟はほんとうにないていて、

「おかあさんさど、おとうさんさゆってやるもん。」と口をつとげていいました。わたしはまけずに、

「いいもん。先生さど、おばあちゃんさど、おじちゃんさもゆってやっがら。」といいかえしました。弟も、

「せかい中の人さ、ゆってやるぞ。」というので、
「今、せかい中の人さゆってこい。」といいました。

弟はこまったかおをしてあやまりました。わたしも弟がかわいそうになって、あやまりました。

それから、二人で、ふとんしきをしました。でも、弟はすぐあきてしまって、でんぐりがえしをやったり、とんだり、はねたりしはじめました。わたしは、はじめがまんしていたけど、とうとうがまんできなくなつて、

「もとむ、さつき、ふとんしぐな、てつだうっていった人だけなあ。」といいました。

弟は自分だとへんじしたのに、さっぱりやらないので、弟のおしりをたたきました。弟もたたきかえしたので、また、けんかになりました。弟があやまって、わたしもあやまりました。それから、二人でまじめにしていたらおとうさんが来て、

「あつたかそうだのう。」といってくれました。

わたしと弟は、うれしくなつて、どんどんしきました。やつと、できあがりました。

おとうさんとおかあさんのいるちゃのまにはしていったら、

「ありがどの。いがつたの。」とおかあさんがいってくれました。わたしはうれしくなつて、またしいてやろうと思いました。